

熊本高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	インターンシップII	
科目基礎情報							
科目番号	0056			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	実験・実習			単位の種別と単位数	学修単位: 1		
開設学科	生産システム工学専攻			対象学年	専2		
開設期	通期			週時間数	2		
教科書/教材	特に定めない						
担当教員	山下 徹,岩坪 要,湯治 準一郎,中島 晃						
到達目標							
機械工学、電気電子工学、土木工学、建築学、生物工学、応用化学に区分される専門分野のそれぞれに深く関わりを持つ、企業、公共機関、大学院・大学などにおける就業体験、キャリア形成のための研究体験を通して、学生自らが目指す専門分野について以下の能力を身につける。 1. 他のメンバーと協調して、課題に取り組むことができる。 2. 企業等の活動を通して、技術者がなしている社会貢献について説明できる。 3. 参加したインターンシップ等の学外での実務経験の記録を残すことができる。 4. 記録をもとに、その目的及び概要を理解し、その内容をレポート等でまとめることができる。 5. 学外での実務経験の内容を、聞き手の理解を促すように工夫してプレゼンテーションを行うことができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
他のメンバーと協調して、課題に取り組むことができる	チームの中で協調性を発揮し、課題に取り組むことができる			他のメンバーと協調して、課題に取り組むことができる		受け入れ先からの問題指摘があった	
企業等の活動を通して、技術者がなしている社会貢献について説明できる	技術者がなしている社会貢献について、社会への影響を考慮して説明できる			企業等での活動を通して、技術者がなしている社会貢献について説明できる		企業等で体験した活動の社会的意義について説明できない	
参加したインターンシップ等の学外での実務経験の記録を残すことができる	参加したインターンシップ等の学外での実務経験の記録により、実務の内容を分析することができる			参加したインターンシップ等の学外での実務経験の記録を残すことができる		実務経験の記録を整理して、残すことができない	
学外での実務経験の内容を、聞き手の理解を促すように工夫してプレゼンテーションを行うことができる	学外での実務経験の内容を、聞き手の理解を促すように工夫してプレゼンテーションを行い、適切な質疑応答ができる			実務経験の内容を、聞き手の理解を促すように工夫してプレゼンテーションを行うことができる		工夫してプレゼンテーションを行うことができない	
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 4-3 学習・教育到達度目標 4-4 学習・教育到達度目標 4-3 学習・教育到達度目標 4-4 学習・教育到達度目標 5-2 JABEE (d)-(4) JABEE i							
教育方法等							
概要	インターンシップを利用した企業や官公庁等学外での研修・実習は、実務を経験する貴重な機会であり、専攻科における学習・教育に多大な効果が期待される。						
授業の進め方・方法	本科目では学内での講義や実験・研究とは別に、機械工学、電気電子工学、土木工学、建築学、生物工学、応用化学のうち、学生が目標とする1つの専門分野において、自主的に参加した学外での様々な実務経験を単位として認定する。上記6専攻区分のうち、学生が主体的に選択した1つの専門分野において認定する実務経験は、主として以下のケースである。 ・企業での実習 ・官公庁等での実習 いずれの場合も単位の認定（成績は「合格」）には、実習期間5日以上、インターンシップ証明書の提出、実習報告書を提出し学修成果の点検、総括がなされていること、インターンシップ報告会での発表、が必要である。 なお、実施された期間によって1単位（5日以上9日まで）、2単位（10日以上14日まで）、3単位（15日以上19日まで）、4単位（20日以上）とする。 単位は、2年次学年末に認定する。 その他 1. 本科目は開講期間にかかわらず実施可能。 2. 実施にあたっては、必ず事前に計画などについて打ち合わせを行うこと。						
注意点	・授業では得られない実務上の経験を経て、その後の研究や授業への取り組み、進路の選択などに活かせるよう、インターンシップでは目的を持って自主的かつ積極的に活動すること。 ・1日の実習に対して、実習に従事する時間以外に1時間相当以上の自学学習を行うこと。 ・機会を見つけて積極的に学外の色々な実務を経験する事により、自分自身の持つ基礎力と実践力を高めてほしい。 ・学習・教育到達目標への対応：（4）4-3、4-4、（5）5-2						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
	週	授業内容			週ごとの到達目標		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	上記のとおり	報告書	報告会	その他	合計		
総合評価割合	100	0	0	0	100		
専門的総能力	0	0	0	0	0		
分野横断的能力	100	0	0	0	100		